

## ～理想の子育て秘伝の書～

鈴木晴仁, 黒木百花, 田中青, 柳田彩希, 西沢利那

延岡高等学校 Nobeoka High School

### Abstract

私たちは将来教育に携わりたいと思いこの研究を行った。この研究を行うにあたり、私たちはマズローの欲求5段階説に着目した。マズローの欲求5段階説とは人間が自己実現するためにどのような欲求を満たせばいいのかを5段階に分けたものであり、人間は低い階層の欲求が満たされることで次の段階の欲求を求めるという理論付けたものである。私たちは最高位の欲求である自己実現を達成させることこそが理想的な教育に繋がるのではないかと考えた。まず私たちは2つの幼稚園を訪問し、園長先生に理想の教育論についてインタビューを行った。その後、本校の2年生の保護者を対象に子育ての体験談についてアンケートを行った。アンケート結果を分析し、子育てにおける課題をどのように解決するべきか、インタビューの回答を参考にしながら考察した。その結果、自己実現するためには好きなことを追い求める環境が必要不可欠であることがわかった。また、研究結果を基に、私たちの考える教育に関する5つの指針を定めた。

**Keyword** 教育/指針/自己表現

### 1. 序論

#### (1) 研究背景

SDGsの17の目標のうち、4番の「質の高い教育をみんなに」では、近年世界中で多くの取り組みがなされている。また教育に対しての考え方は人それぞれであり、多くの考え方がある。それについて調べていく中で、周囲の人間や環境が子供の成長に大きく関わることが分かった。私たちは理想の教育について研究し、自分たちなりの答えを出して、幼児教育の指針となる指針を作成したいと考えた。

#### (2) 研究の動機

私たちはSDGsを解決するために、教育の拡充が必要不可欠であると考えた。教育について研究していく中で、周囲の人間や環境が幼児期の成長に大きく関わることがわかった。それらの影響について研究し、自分達で独自にまとめた“幼児教育の指針”を作成したいと思ったのがきっかけである。“幼児教育の指針”を作ることで、子供の気持ちを理解しやすくなり、教育の手助けになると考えられるため本研究を行う。

#### (3) 過去の研究成果

私たちは「マズローの欲求5段階説」を参考にして仮説を立てた。「マズローの欲求5段階説」とは人間の欲求を生理的欲求・安全欲求・社会的欲求・承認欲求・自己実現欲求の5つの階層に分け説明した心理学理論である。マズローは「人間は自己実現のために絶えず成長する生き物である」という考え方を前提としている。

#### (4) 研究仮説

子どもが成長したという定義をマズローの欲求5段階説における「自己実現の達成」とし、その土台となる欲求を満たしていくことこそが理想的な教育であると考えた。子どもがその欲求を満たすために、周囲の人間関係や環境を整えることが教育において大切になると考える。

## 2. 調査方法

### (1) 調査方法(or実験方法)

わか葉幼稚園さんと西階幼稚園さんへ訪問し、園長先生に事前に準備していた質問を用いて幼児教育についてお話を伺った。その後お話をもとにアンケートを作成した。

### (2) アンケートの内容

本校2年生の保護者(49人)を対象に子育てについて2つの質問をした。

- ①子育てをするにあたって、どのようなことに困ったのか
- ②子供に対してどのように接していたかについて

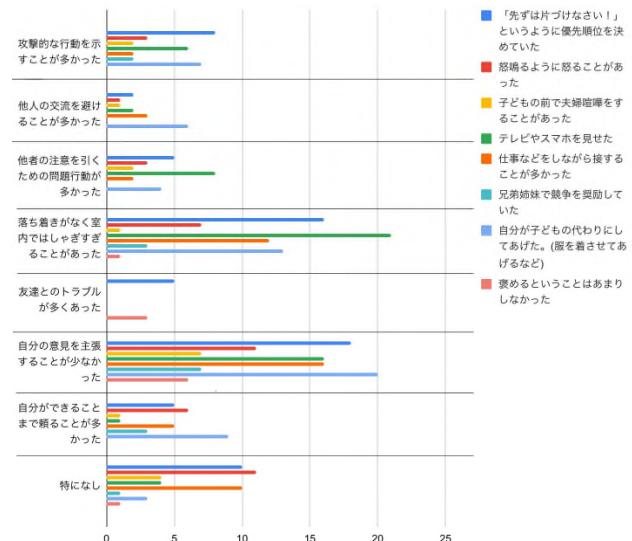
### (3) 式(基準or定義or分析方法)

2年生保護者49人を対象にして「教育において困っていたこと」「子どもとどのように接していたのか」ということを中心にアンケートをとった。この結果をもとに、「困っていたこと」と「接し方」の関係性を見つけることができる。

## 3. 本論

### (1) 結果or調査(実験)結果1

### (2) 結果or調査(実験)結果2



### (3) 考察

グラフより、まず「落ち着きがなく室内ではしゃぎすぎることがあった」という項目に着目すると、「スマートフォンやテレビを見せることが多かった」と回答した人が多いことが読み取れる。

原因としては、テレビやスマートフォンを子どもに見せている時間が長くなると、体を使って遊ぶということが短くなり、十分にエネルギーを発散させる機会が減っているからだと考えられる。

ではどのように運動の欲求(生理的欲求)を満たす必要があるか。

わか葉幼稚園さんのお話では、スマートフォンを見せる時間が多くなると運動する機会が減り、体力のない子どもが育ってしまうため、子どもになるべくテレビやスマートフォンを見せないように保護者と協力しているとのこと。

中央教育審議会によると、親子で参加できるイベント(ラジオ体操)などや、親子でスポーツ活動を行うことが有効であり、このような行動によって、子どもの「外で体を動かす」というきっかけを作れる。

そこで私たちはテレビやスマートフォンから離れ、外で一緒に体を動かすことが良いと考えた。

次に「自分の意見を主張することが少なかった」という項目に着目すると、「自分が子どもの代わりにすること多かった」と回答した人が多いことが読み取れる。

原因としては、保護者が子どもの代わりになんでもしてしまうことが、自己表現をする機会を奪ってしまっているからだと考えられる。

ではどのように自己表現力をつけなければよいか?

西階幼稚園さんの話では、遊びを多く取り入れることによって、自分の興味を見つけることができ自分を表現する自己表現の土台を作れるとのこと。

また、子どもが遊んでいる時に褒めるとより子どもの自己表現力を高めることにつながる。

そこで私たちは遊びを多く取り入れ、小さな成長に気づき、褒めるとよいと考えた。

## 4. 結論orまとめ

「好き」と思えることを追い求めれば、自己実現を達成できる。そのためには、「好き」を追い求められる環境が必要不可欠である。そこで、①子供の代わりにやらざるべし！②遊びを通して子どもの「好き」を見つけるべし！③小さなことでも徹底的に褒めるべし！④ストレス発散には外で思いっきり遊ばせるべし！⑤テレビ、スマホは適度に正しく利用させるべし！という5つの捷を考えた。

## 5. 展望(or 課題と展望)

他の国と日本の幼児教育を比較して違いを発見し、日本の教育に何が足りないのか、どうすれば教育がこれまで以上に発展するのかを深く考え、自己表現を可能にする教育をみつけていきたい。

## 6. 謝辞

調査の実施にあたり、協力してくださったわか葉幼稚園の田村智彰園長、西階幼稚園に感謝の意を申しあげます。

本研究に助言をくださった延岡市キャリア教育支援センターセンター長の水永正憲氏、延岡高校の圖師崇人先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

## 7. 参考文献

中央教育審議会(2002年)『子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)』文部科学省 10月3日 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001.htm)

(2022年)『マズローの欲求5段階説-子どものイライラは欲求不満のサイン！抑えられない子どもの欲求とは？』親の学校プロジェクト <https://www.oyagyosaitama.com/maslow-hieratchy/>

---